



みどりの風

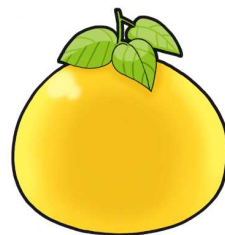


子どもたちが成長するのに欠かせない

校長 安藤 晋哉

私たちは学習活動や生徒会活動、部活動など様々な場面で、生徒の皆さんが成長することを願い、支援しています。その成長の瞬間瞬間に喜びを感じ、やり甲斐をもって取り組んでいます。先日、ある記事に興味深い話がありましたので紹介します。

「土佐文旦」というみかんの生産者が、「樹木の成長に最も大事なものは根っこという見方に賛成です。」「よい根ができれば、よい実になる。そのために大事なことは、水と肥料のやり方である。特に肥料は、多く与えすぎてはいけません。毎日毎日、丹念に状態を見てやり、丁寧に水をまく。果物の根が根付くには、思いのほか時間がかかるものである。」



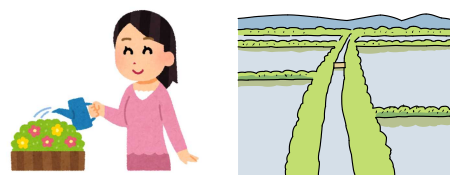
別な人に聞いた話ですが、根に水をやる時、私たちは根元にたくさんの水を注ぎがちになるが、果樹を育てる際には、根がどこまで張っているかを慎重に見極めながら、そのちょっと先のエリアに水をまいてやるのがよいのだそうです。そうすると、根は自分の力でグッと伸びようとするのだそうです。いずれも、「育」の極意に迫る話だと思います。

このことを学校の教育活動や家庭教育に置き換えてみると、根は地面の中にあり見えないことから、「やる気」「意欲」「意識」といった「心」と捉えることができそうです。とすれば、「心」を育てるには、水や肥料をタイミングよく丁寧に与えることが必要。水や肥料は「声掛けや励まし、アドバイス」になりそうです。

「やる気」「意欲」を促す声掛けは大変難しいですが、子ども一人一人のちょっとした変化（事実）に注目し、その変化に私たち大人は「気づいているよ。継続して頑張れ。これに挑戦できそうだね。」と伝えることはできそうです。

「花には水を、人には声を」「田んぼの肥しは人の足音」といった言葉があります。

子どもたちの成長には、周りの人たちの適切な関わりが必要だとの教えと捉えます。



一方、文旦に話を戻すと、苗木は、三本の竹で支えるということをしてやるそうです。竹を同じ長さに切り、それらをバランスよく組み、その間を苗木が通るようにします。もし、三本の竹のバランスが崩れていけば、苗木はまっすぐに伸びず、根付きも悪くなる。苗木の成長を子どもの成長に当てはめると、三本の竹は「家庭」「学校」「地域」ということでしょうか。子どもが健全に成長し、自立するためには適切なサポートが必要なのです。この三本の竹である「家庭」「学校」「地域」がそれぞれの役割を理解し、めざす方向を確認しあい、歩調を合わせ、子どもたちの成長に取り組んでいきたいものです。

1学期も残り半月あまり、夏休みも近づいてきました。重富中の生徒たちが自信をつけ、将来の自立に向けて歩みを進められるように私たちは「声掛けや励まし、アドバイス」などできることからトライしていきましょう。